

# フィールドワーク開始へ

## 市内企業、市職員が課題提示

県立延岡高校（川越 勇二校長、734人）メディカル・サイエンス（MS）科の1年生81人は14日、延岡市古城町の同校に企業の社員や市職員を講師として招き、「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」の中で取り

組むフィールドワークに向けて理解を深めた。SSHは、先進的な理数系教育を通じて、生徒の科学的能力や思考力を培い、将来社会

をリードする科学技術人材を育成するのが目的。文部科学省の事業で、同校は今年度から指定を受けている。フィールドワークは、提案された専門的

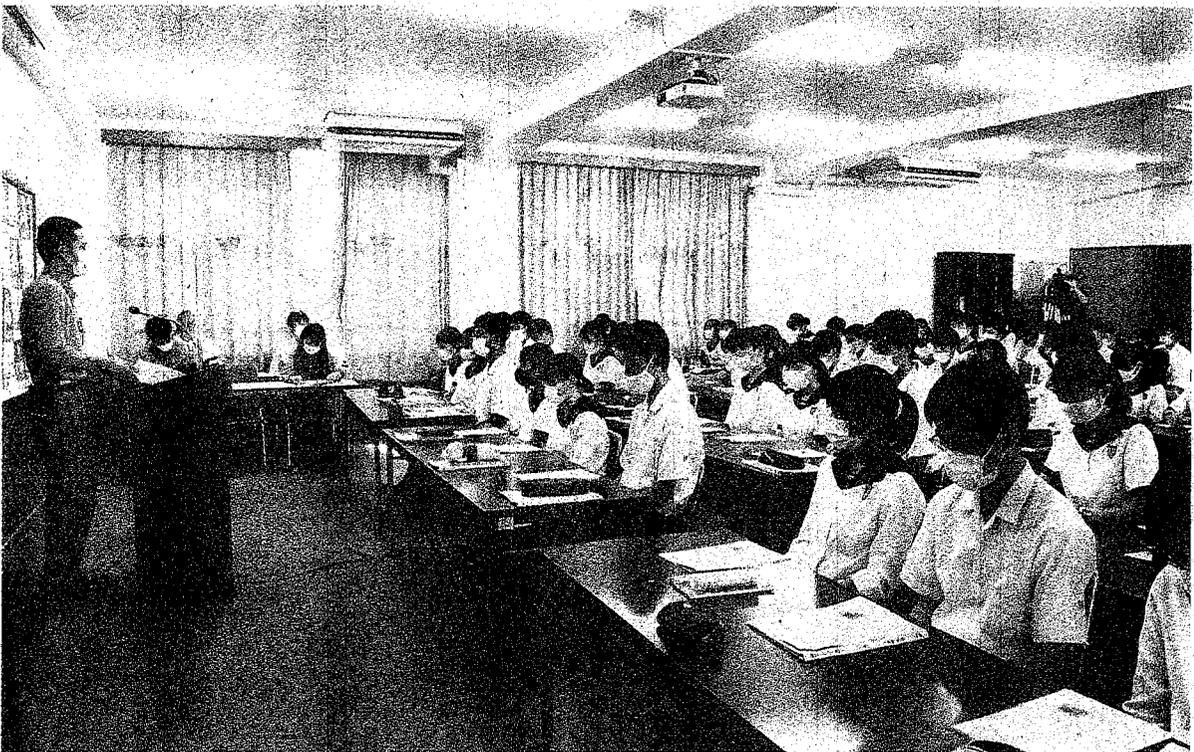
な研究課題に沿って、生徒が研究や職場見学などを行う。本来は4月を予定していたが、新型コロナウイルスの影響で5カ月遅れのスタートとなった。

### グループで研究、2月に発表

講師として来校したのは、旭化成メディカルMTの戸村萌夏さん（30）、旭化成の太平洋人さん（27）、細江夏樹さん（27）、清本鉄工の牧野昌晃さん（45）、市上下水道局の高橋英志さん（38）。

「延岡の川水を使っておいしい飲み水を作る」や「フルーツ電池を用いたLEDライトの作成」など専門的な知識を含めた5つの研究課題を提案し、今後のフィールドワークの進め方やポイントを説明した。

生徒は1人1つずつ課題を選び、課題ごとにグループをつくって、週1回のペースで研究する。成果を来年2月に発表する。青柳慧修さんは「とても心待ちにしていた。今後の研究に刺激を得られた」と意欲満々の様子。講師は月に1回来校し、生徒にアドバイスするという。



講師が挙げる研究課題を真剣に聴く生徒